

中央教育審議会初等中等教育分科会
教育課程部会（第10期第8回（第117回））における意見

東京都調布市立飛田給小学校長 山中ともえ

先日の部会において、意見を述べる時間がありませんでしたので、書面にて提出させていただきます。

1 教育課程部会におけるこれまでの審議経過（案）について

○共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育システムの推進

これまで、現在の教育的な課題についてピンポイントで審議されてきましたので、特にインクルーシブ教育について語られることはありませんでしたが、障害のある子供も含め、外国人、LGBT、病気のある子供・感染者等、多様性を尊重する社会づくりを目指した教育が大変に重要になってきています。特に、新型コロナウイルス感染関連で、改めて、感染した方や感染症に関わる人への差別的な言動等について注意を払わなければならない状況です。今回の審議には、特別な才能を有する子供の教育についても2人から報告がありましたが、そのような子供たちも含め、多様性を尊重する社会づくりを目指すことが、今の時代であるからこそ必要であることにも言及いただきたいと思います。

2 特別な才能を有する子供の教育について

○どう定義するか

他の委員からも発言がありましたが、特別な才能を有する子供という言葉さえ、はっきりしていない面もあるので、どのように定義するのが、まず検討が必要だと思います。2E教育等と言われたり、一時飛び級制度等も検討されたりしたこともありますが、学校にはなかなか定着しません。時折、暗記力がずば抜けていたり、特定のものに対する知識が非常に深かったりする子供もいますが、年齢があがるとともに他の子供と変わらなくなっていく場合もあります。発達障害のある子供の中にも、他の子供とは異なる力を持つ子供もおりますが、発達障害のある子供全てがそうではありません。この点については、もっと議論がなされ、検討が進まないと、学校現場ではまだまだ知られていない状況があります。

○その発掘や教育の場をどうするか

定義やその存在がはっきりしたら、ということになりますが、その子供達の発掘の方法や教育の場等が課題となります。学校では、様々な相談が教育相談として、教育委員会との関係の中で進められています。その教育相談の中で、特別な才能を有する子供も対応していくのか、また、全く異なる部署を新たに組み込むのかなど、今までにない枠組みになると思います。山口委員からも発言がありました、スポーツ界で子供の頃からの人材の発掘や育成が進んでいる状況を伺うと、教育界でも、学校の間ではなく、大学や医療機関、民間機関を活用して、このような子供の才能を高めていくことも考えられます。今後、かなり深い検討を必要とする事項であると思います。

3 遠隔・オンライン教育等の在り方について

○オンライン学習と「主体的・対話的で深い学び」

新学習指導要領の実施が順次始まっていく時期であり、今回の改訂で大切にされている「主体的・対話的で深い学び」が、オンライン学習でどのように実施できるのか、研究や実践例を深めることが必要です。この度の臨時休業は急なことであり、各学校では、オンライン授業に対する準備や検証もままならない中で、対応を進めてきました。ICTの環境整備とともに、新学習指導要領の趣旨等が生かされ、各教科の育成すべき資質・能力等を把握した内容の授業になっているのか等の評価が十分行われることが大切です。今後、環境整備が進み、オンライン授業が可能になってくることが予想されますが、その時に、実際の授業の内容が定まっていけないということがないようにすることが重要です。

○双方向や一方の ICT を活用した授業の扱い

今後、不登校の子供や感染防止のため登校しない選択をする子供に対して、オンラインで受けた授業についての出席扱いや単位の認定について、どのようにするのかを検討する必要があります。オンラインで受ける授業といっても、Zoom 等を活用した双方向型の場合、動画等による一方向型の場合、教室での授業配信の場合など、様々な場合が出てきています。子供の参加状況をどのように評価していくのかについても検討が必要であると思います。

○オンライン学習の課題

家庭学習の際、紙ベースの課題だけで学習を進めるよりは、オンラインでつながることによる良さが報告され、環境整備を進めることは必須です。しかし、一方で、オンラインで授業を受けた子供たちから様々な課題も上がってきています。

特に、子供の意欲の高め方や即時評価の在り方、反応の把握、説明の仕方、教材の提示方法等、様々な視点での課題があり、また、オンラインによる授業そのものの課題の整理が十分ではありません。また、健康への影響や配慮等も必要です。さらに小学校低学年の子供等自分だけでは機器を十分に扱えない場合への対応も必要だと思えます。

○民間機関を活用した動画配信、各学校へ ICT 支援員等の配置

オンライン授業を実施できるようにすることが喫緊の課題ではありますが、それ以外に民間機関を活用した授業に関する動画配信等ができないものでしょうか。この度の臨時休業中もいくつかあり、部分的に活用できるものもありましたが、系統的に各教科を網羅できるものは多くはありませんでした。各学校で ICT 環境整備していくにあたり、教員以外に、ICT を担当する人材の配置が望まれます。

○障害のある子供への活用例の蓄積

障害のある子供の中には、検定教科書を使用する場合は難しい子供もあり、オンラインで授業することが難しい場合もありました。障害のある子供の状態は様々であり、教科書の内容以外に、発達段階や障害の特性に応じて学べるコンテンツ等の充実が必要です。